



くまがみね

学校だより
2024 (令和6) 年7月2日
福山市立熊野小学校

熊野小学校だからできること、熊野小学校にしかできないことに 挑戦！

“田植え”体験 ～ 5年生 ～

5年生が今年度も「山田の里農園」で「田植え」を行いました。熊野学区まちづくり推進委員会の方々のご協力をいただきました。毎年のことながら、子ども達がすぐに田植えができるように、様々な準備をていねいにしていただき、その後の水の管理等も全て行っていただけることはありがたいと思います。



また、田植えの2週間後には、志田原友逸 様をゲストティーチャーにお招きし、お米のことや米作りについて学びました。お米の収穫を迎える頃、5年生児童がどんな学習に挑戦しているのかが楽しみです。ご協力してくださったみなさま、ありがとうございました。

「常国寺」について知ろう！ ～ 6年生 ～

稗田 幸信 様をゲストティーチャーにお招きし、地域の歴史について学びました。現地に行つての学習ではないため、できるだけ分かりやすいようにと、写真を50枚ほど準備して下さっていました。



今年度の6年生の学習は、熊野地域の歴史について学んで分かったことを、鞆の浦に向いて発信しようと計画しています。鞆の浦へ観光で訪れた方に、熊野の歴史を伝えることで、熊野地区へも足を運んでもらえたらという思いから学習を始めています。2学期に、現地へ行く予定です。今回も熊野学区まちづくり推進委員会には、鞆の浦への往復の貸切バス費用を負担していただくなど、大変お世話になります。ありがとうございました。

校長室も学びの場に 「校長先生に挑戦！」コーナーより

校長室前の「校長先生に挑戦！」コーナー。

これまでこのコーナーでは、暗記する内容が多かったので、今回は「活用力」を育てることのできる「お題」を提示しました。学校的话题を情報番組に編集して、地域に発信する機会があればいいと思いました。【校長室前に掲示したものは、これだけ】



～ 想定を超えた子ども達の動き ～

子どもが主体となって動くとき、それは授業中ではなく、休憩時間等の時間でした。私の当初の予定では、今回の情報番組制作に挑戦したいと思った児童を校長室に集め、グループをつくったり、手順を説明したりしながら活動を進めていこうと考えていました。

ところが、校長室前の掲示を見た5年生児童は、すぐに動き出しました。私には何も告げずに。

メンバーを集め、役割分担をし、どんな情報があれば番組になるかメンバーで相談したようです。水泳の授業、無言掃除、天気予報、リサイクル活動などで計画しているということでした、タブレットを活用し、あとは番組の形に編集すれば完成するところまでできているとか。

自分たちで、活動をどんどん進めていることに驚きました。「撮影や編集が楽しいです。」「どんどん番組ができていく感じがいいです。」「難しいけどやりがいがあります。」と5年生は教えてくれました。後から聞いて知ったことですから、実際にどんな情報番組ができるのかわかりませんが、完成が楽しみです。動画をQRコードで読み取ることができるようにして、地域のみなさまに見ていただきたいと考えています。

～ 「勉強しなさい」と言われなくても、子どもが自ら勉強を始める教師の“しかけ” ～

昨年度の学校だよりで、当時の4年生の取組を紹介しました。「児童が自分の学力を自己分析できる力を付け、自分に必要な学習を自分で考えて取り組むことができる時間にしたい」という担任の願いから、年度当初より、週に1時間、それまでの学習内容を振り返る「チャレンジタイム」を設定していました。昨年度のこのような学習方法の工夫と積み重ねが、今回の5年生の姿につながっているのではないかと感じています。

～ 受け身の学習ではない「主体的な学び」へ ～

今年度、高学年では全員一律の「宿題」をやめ、自分で考えた「家庭学習」の取組をスタートさせています。これらの様々な取組が、これからの時代を生きていくための術になります。まずは、自分から進んでやってみようと思うこと。そして、自分に必要な課題をみつけて学習する習慣を身に付けていれば、誰かにやらされなくても、いつか自分から動き出すのです。



【放送番組を制作しているメンバー】